

下肢動脈超音波検査		S013		
		担当部署		
下肢動脈エコー		生理		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項		該当なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→血管エコー→下肢動脈エコー(中検技師)		
	2	電子カルテ→指示①→生理→表在エコー→*血管エコー検査→下肢動脈エコー(中検技師)		
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		<p>①超音波の物理的要因 超音波の基礎理論は難解であり、日常検査を行ううえでかならずしもすべてを理解していなくても検査を行うことは可能である。しかし実際には、遭遇する多様な超音波像において、虚像の発生など基本的な知識については知っておかないと判読を進めていくことが困難となる。</p> <p>②解剖学的要因 超音波検査は多方向から断層像を得るため、立体的な解剖学の知識、正常変位、個人差による画像の変化、血管と骨格や肺、消化管ガスによる障害などについて理解していないと、得られた画像を判読していくことが困難である。</p>		
検査受付時間		8 : 45～17 : 30		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		<p>1) 検査直前の激しい運動は避ける。</p> <p>2) 下腿部を露出してもらい、安静仰臥位。基本は仰臥位で検査施行。必要に応じて座位、伏臥位で検査を行う。</p>		
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 人体(下肢動脈)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2				
3				
4				
5				

6					
7					
8					
検体搬送条件		ベッド可能			
検体受入不可基準		1)体動が激しく安静を保つことができない患者 2)検査に同意を得られない患者 3)閉所恐怖症、暗所恐怖症の患者(ドアを開放しての測定や室内灯を点けて検査を実施出来る場合は実施する。) 4)身体的な理由によりエコーゼリーの付着やプローブの接触が困難な患者 (可能であれば他の位置から検査を施行する。)			
保管検体の保存期間		特記事項なし			
検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		半日(診察前：1 時間)			
生物学的基準範囲		1) 観察血管での波形パターンが急峻な立ち上がりと拡張期に逆流成分を伴う正常波形である。 2) AT は 100～120msec 未満。 3) カラー Doppler で順行性の血流シグナルが充満しており、閉塞、狭窄部を認めない。			
臨床判断値		該当なし			
基準値				単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし			
臨床的意義		下肢動脈超音波検査は閉塞性動脈硬化症の診断に有用であり、急性動脈閉塞、膝窩動脈外膜嚢腫など、超音波検査で確定診断が行える下肢動脈病変は多岐にわたる。ABI や足趾圧測定とあわせた評価が重要であるといわれ、エコーガイドによる血管内治療など、治療に直結した検査が行える。			